



玉葱残さ処理施設 7月から稼働開始

市内3施設で

市内五か所で計画されている南あわじ市バイオマス利用センター（玉葱残さ処理施設）の内三か所が完成し、七月から残さ処理を開始します。

同施設は、玉葱の出荷や加工時に発生する「残さ（野菜屑）」を引き受け、炭化させて土壌改良剤として田畑に還元して有効利用するものです。「ほんまもん玉葱」の産地として、消費者へのイメージアップを図り、循環型農業を目指す施設として建設が進められています。

「乾燥炭化システム」では、



▲玉葱残さ処理施設（倭文センター）

残さを外気と遮断した筒内に投入、スクリーンで送りながらバーナーで加熱し、乾燥炭化させます。ほとんど臭気がなく、温度管理などは自動制御されています。

一か所の処理能力は一時間あたり二百キ。今後、二施設を加え、処理を行います。五か所の総事業費は約五億四千万円。

この施設の管理運営は、あわじ島農協と淡路玉葱商業協同組合で設立したバイオマス施設管理組合により行われます。

施設の利用案内

- ◆施設の場合 ▽倭文センター 一七〇八木センター 八木養宜上三二九一 賀集野田八〇一
- ◆農家分受入れ期間 七月一日～九月三十日までの毎週月曜日・金曜日午前九時～正午（各施設共通）



▲乾燥炭化システム

- ◆利用対象 市内の農家および管理組合に加入する組合員
- ◆搬入方法 各施設備付の専用運搬ケース（約二〇キ入り）による持込
- ◆利用料金 一五〇円／二〇キ（利用料三〇〇円の半額を市が助成）
- ◆炭化物は三〇〇円／四〇キ（約五キ）で販売予定
- ◆農林振興課 ☎43・5025、バイオマス施設管理組合（淡路玉葱商業協同組合） ☎42・0356
- ※ほ場で発生した「残さ」は、一か所にまとめ石灰窒素を加えビニールで覆い、適切に処理してください。

年金だより インターネットで「年金個人情報」を提供

社会保険庁は、インターネットで自身の年金加入記録を確認できる「年金個人情報提供サービス」を開始しました。

確認できる内容

- ① 公的年金制度の加入の履歴（加入制度、事業所名称、資格取得、喪失年月日、加入月数）
- ② 国民年金保険料の納付状況
- ③ 厚生年金の標準報酬月額、標準賞与額
- ④ 船員保険の標準報酬月額、標準賞与額など

確認できる期間

ご自身が年金をお受けになるまで。

注意点

- ① 年金加入期間は、画面に表示されている更新年月日時点での記録となります。
- ② 共済組合等の加入者は本サービスの対象外です。
- ③ 過去に共済組合に加入していた方の共済加入期間は、閲覧できない場合や正確に表示できない場合があります。

利用方法

- ① 社会保険庁ホームページ（<http://www.sia.go.jp>）にアクセス。「年金加入記録照会・年金見込額試算」からユーザID・パスワードの発行を申し込みます。
 - ② 約二週間程度で社会保険庁からユーザID・パスワードが発行されます。
 - ③ 社会保険庁ホームページからユーザID・パスワードと、申込時にご自身で設定いただいた「お客様設定パスワード」を入力します。
- 明石社会保険事務所 ☎078・912・4916

南あわじ春まつり

だんじり37台が集合

市内のだんじり三十七台が集合した「第一回南あわじ春まつり」が五月三日、三原健康広場で開催されました。一昨年まで合併前の三原町で十四回にわたり開催されていた春まつりを受け継ぎ、市連合自治会や観光協会、商工会などにより実行委員会を結成し、市内の自治会や祭礼団に参加を呼びかけました。



▶一万人が訪れた春まつり

区の宝「布団だんじり」は、三十二台が次々と勇壮な練り回しを披露。だんじりを担ぎ、走り回る「投げだんじり」も五台が参加。観客らは、タイミングを合わせだんじりを高く突き上げたり、投げ落としたりする技に見入っていました。

二か所に設けられた特設舞台では、七団体が獅子舞を披露。十七団体が拍子木と太鼓のリズムに合わせて、だんじり唄を情感豊かに披露し、観客から掛け声や拍手が沸き起こりました。

会場には、フリーマーケットや観光協会の屋台、約百匹の鯉のぼりが青空を泳ぎ、彩りを添えました。まつりでは、だんじりの関係者千五百人が地域交流を重ね、延べ約一万人が地域の伝統と力強さを感じる行事となりました。

ふれあい市長室

若者のエネルギーに感動！

南あわじ市長 中田勝久

「ふるさとの誇り」私たちの加地亮選手がワールドカップ日本代表に選ばれました。熱いものが込み上げ感動感激でいっぱいです。不動のサイドバックとして、豊富な運動量とひたむきさはジーコ監督の厚い信頼を得ております。南あわじ市の子供達にとつてこれ以上のプレゼントはなく、仕事に汗する者へも大きな勇気を与えてくれてます。加地選手の良さは、控えめでコツコツと努力し、J2で出場機会が減った時期でも



▲加地亮選手の日本代表入りが決まり、バンザイで喜ぶ関係者ら

ふるさとの宝であります「だんじり」の参加は、松帆、賀集、阿万、三原地区を含めて三十七台、獅子舞が七団体と、旧三原町の開催を通じて最大となり、お客様からも高い評価を受けました。先人達が築き上げ、それぞれ自治会で多額のお金を出し合い修繕を重ね、地域の者達を守り受け継いできた伝統には、人のお世話を通じて地域をまとめる力、自らを高め



▲だんじり唄の披露（南あわじ春まつり）

る力、後継者を育てる力があります。特に若者が一つのことにエネルギーを集中させ、だんじり唄や投げだんじりなどの「ふるさと文化」を確立しております。また、祭礼団等は消防団と同じように地域の人達全員が参画し、連帯感や人間としての訓練がなされ、地域の結びつきを強化する素晴らしい営みです。少子高齢社会に突入した時代、高齢者の方々は生涯青春を目指していただき、南あわじ市を支える若者は、加地選手のように、自らの能力を地道な努力により最大限に発揮